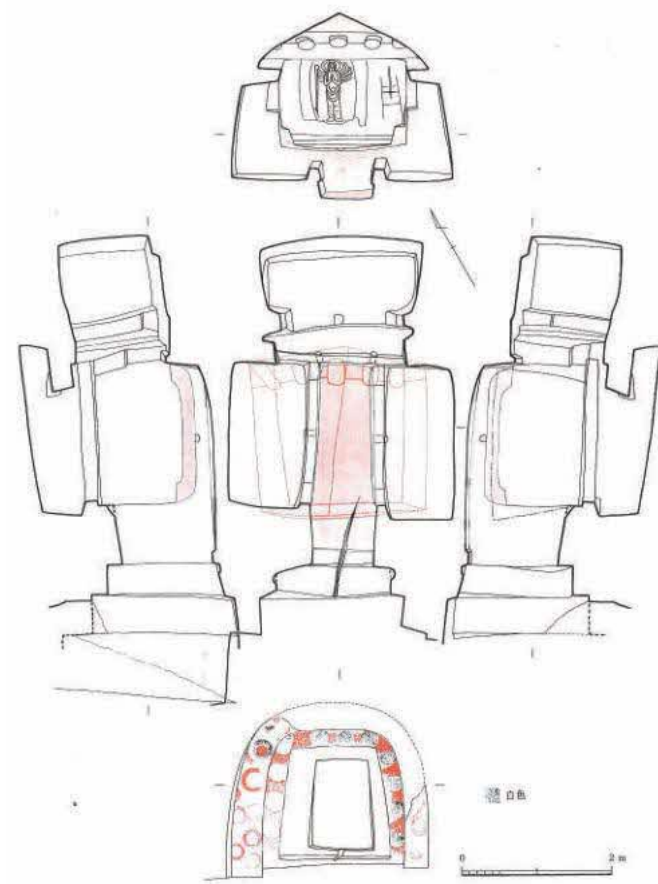
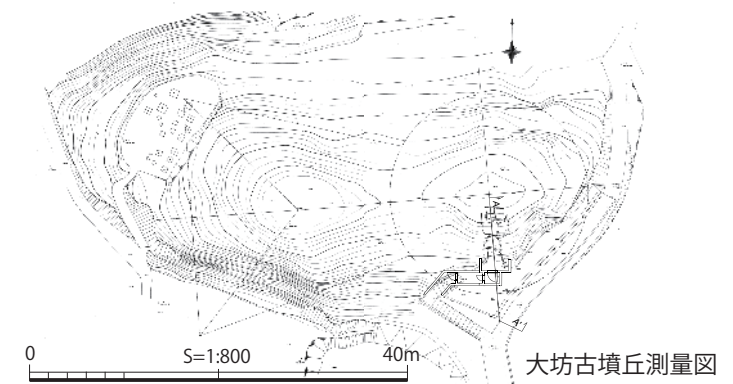


73の3図 石貫穴観音1号横穴墓実測図

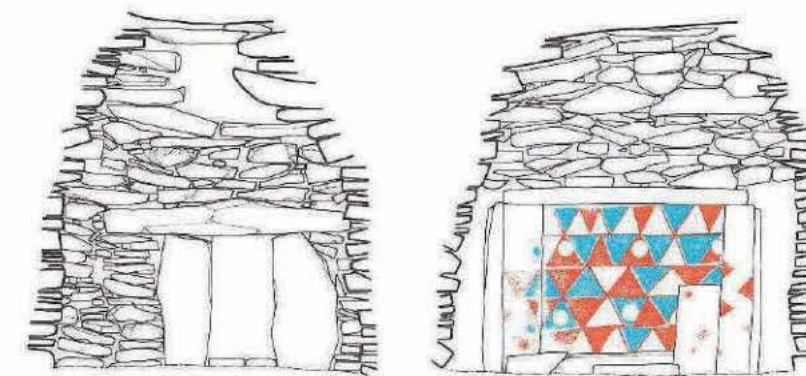
石貫穴観音横穴群1号墓実測図



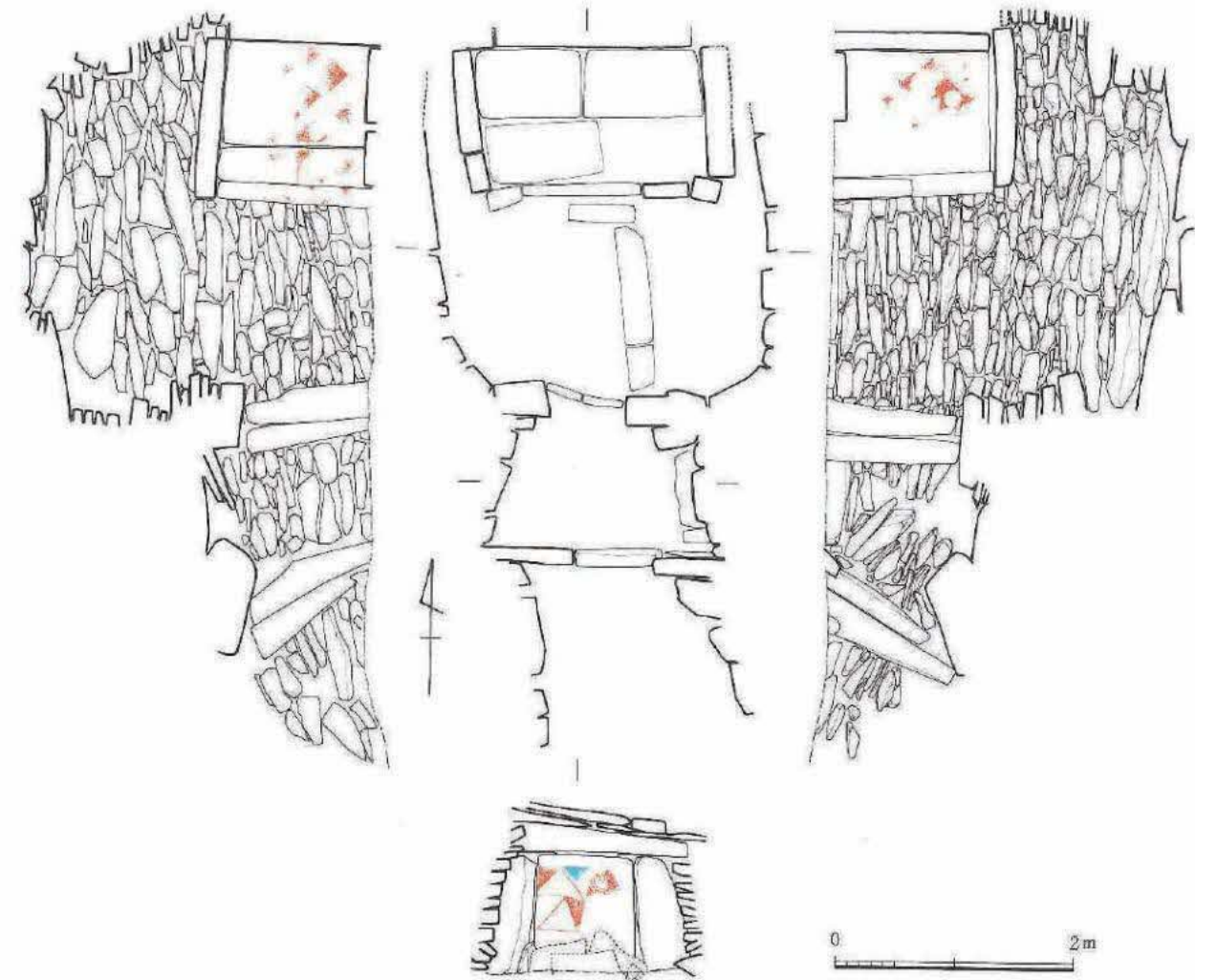
石貫穴観音横穴群2号墓実測図



大坊古墳丘測量図



大坊古墳石屋形奥壁の装飾



大坊古墳石室実測図



石貫穴観音横穴群1号墓



石貫穴観音横穴群1号墓飾縁装飾



石貫穴観音横穴群3号墓



石貫穴観音横穴群2号墓

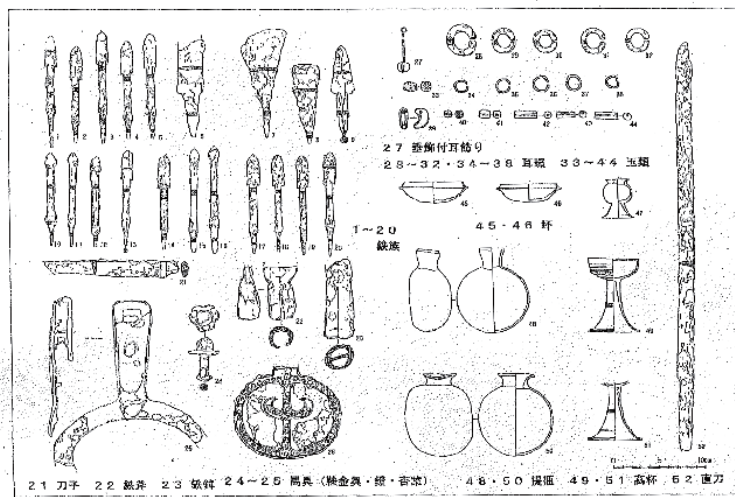


石貫穴観音横穴群2号墓内部



石貫穴観音横穴群2号墓内部の千手観音像の浮彫(左)と十一面千手観音像(右)





大坊古墳出土品

- 1～20 鉄鏃
- 21 刀子
- 22 鉄斧
- 23 鉄鉾
- 24～26 馬具
- 27 垂飾付耳飾り
- 28～32・34～38 耳飾り
- 33～44 玉類
- 45・46 坏
- 48・50 提瓶
- 49・51 高坏
- 52 直刀



大坊古墳保護施設（南から）



大坊古墳石屋形



大坊古墳見学室アプローチ



大坊古墳見学室のガラス扉



整備前の大坊古墳石室入口



整備前の大坊古墳



後田古墳石棺



石貫ナギノ横穴群の丘陵



石貫穴観音横穴遠景



石貫穴観音横穴  
左から1号墓～3号墓

石貫穴観音横穴、石貫ナギノ横穴群測量図



## 4. 石貫穴観音横穴・石貫ナギノ横穴群



石貫穴観音横穴及び石貫ナギノ横穴群は、菊池川支流の繁根木川右岸に所在する、装飾のある横穴墓群です。南北に細長い丘陵の西側崖面に石貫穴観音横穴が5基、東側崖面に石貫ナギノ横穴群が48基確認されています。横穴墓入口の飾縁には線刻されているものや、赤色などで彩色されているものがあり、石貫ナギノ横穴群の大刀のレリーフなど多様な装飾が施されています。横穴墓としての規模・内容も優れており、玉名市が全国に誇る史跡です。

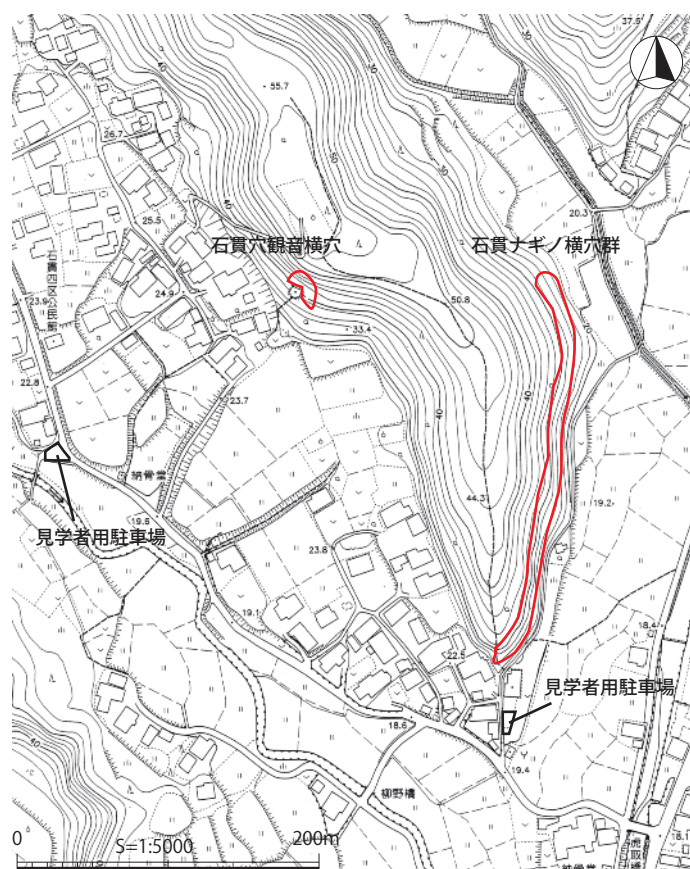
石貫穴観音横穴及び石貫ナギノ横穴群は、古墳時代に築造されて以後、周辺は寺院及び神社となっていました。丘陵上には、後田古墳がありましたが、丘陵全体が後世に地形の改変を受けており、墳丘などの内容はよくわかっていません。

石貫穴観音横穴のふもとは、寛正2年(1461)臨濟宗の寺院である安世寺が開かれました。菊池氏一族の藤原為安が、菊池の臨濟宗正観寺第十五笑耘和尚を招いて創建したと伝えられています。現在寺院はなくなっていますが、周辺には五輪塔群などが残っています。

両横穴群の丘陵上には、石貫熊野座神社がありましたが、昭和初期に火災に遭い繁根木川左岸に移築されました。寺社がなくなっても、地元の人々によって横穴墓と周辺の清掃・保全がなされ、大切に保存されています。

石貫穴観音横穴は丘陵西側にあり、3基が並んで築かれ、北東にやや離れて1基、さらに下方に1基の計5基が確認されています。西側から1号墓とされ、並んだ1～3号墓に装飾があります。1号墓は飾縁に赤と白の円文、2号墓は飾縁に赤の円文と内部奥壁に千手観音象、3号墓は赤の彩色が施されています。2号墓が位置的、構造的に中心を成し、規模も大きく飾縁の幅約2.6m、高さ約2.3m、入口から玄室の奥壁まで約3.7mを測ります。屍床上部の底には軒丸瓦状の円形突起が設けられていることも特徴的です。横穴墓の形態などから6世紀中ごろの築造と考えられており、千手観音象に関しては、諸説があり年代特定は困難な状況ですが、作風などから平安時代ごろの作と推定されます。横穴正面には拜殿が設置され、古くから信仰の対象となっています。

石貫ナギノ横穴群は丘陵東側にあり、凝灰岩の崖面に南北約250mにわたって48基の横穴が確認されています。横穴群は位置などでいくつかのグループに区分されます。部分的に崩落しているところもあり、埋没しているものもであると推定されます。横穴群の中で6号墓と8号墓の彩色が最も保存状態が良く、飾縁に同心円文などが描かれています。また、8号墓内部の石屋形には同心円文と連続三角文が線刻され、石屋形と側壁の間に大刀が浮き彫りされているなど、多様な装飾があります。



石貫穴観音横穴、石貫ナギノ横穴群位置図

## 3. 永安寺東古墳・永安寺西古墳

永安寺東古墳・永安寺西古墳は、今から約1400年前(6世紀後半～7世紀初め頃)に造られた古墳です。菊池川右岸の玉名平野をのぞむ丘陵の先端にあり、東西に2基が並んでいます。いずれも円墳で、南に開口する横穴式石室が設けられています。

石室内部は、入り口から羨道を通って、手前に前室、その奥に玄室(奥室)があり、複数とよばれる構造です。玄室には、遺体を安置する石屋形が設けられていますが、西古墳については、上部が失われていました。

永安寺東古墳・永安寺西古墳の最大の特徴は、石室内部に装飾が施されている装飾古墳であることです。石室内は、赤の顔料で描かれた、三角文・円文で飾られています。東古墳では、船や馬も描かれています。西古墳の装飾は、残念なことに色が失われてしまっており、外郭線だけが残っています。

永安寺東古墳・永安寺西古墳は、大正6年に京都帝国大学による調査報告書が刊行されたことから、広く知られるようになりました。また、昭和39年には東古墳の装飾が雑誌の表紙を飾ったことから、一般にも広く注目を集めました。その一方で、東古墳の前面は崩壊が進んでおり、保存のために昭和48年に覆屋がかけられましたが、装飾の傷みが進むのを防ぐことができませんでした。その後、平成4年には国指定史跡となり、平成6年には、公有地化をはかりました。平成11年度から平成17年度にかけて保存整備事業を実施しました。両古墳ともに、石室の一部や墳丘の元の形が失われていたために、平成11年度から発掘調査を行い、墳丘や石室を調べました。その結果、東古墳では、失われ

ていた羨道から前室にかけての石材の一部が見つかりました。また、西古墳では、従来、単室であると考えられていた石室が、複室であることがわかりました。

墳丘は、いずれも円墳と考えられますが、13世紀以降に、周辺の地形が改変されていたことがわかりました。同じ時期に、西古墳の石室も壊されたものと考えられます。西古墳からは、馬具や装身具などの副葬品が見つかりましたが、石室が壊された際に、その多くが失われたようです。

平成15年度には、永安寺東古墳の整備工事を行いました。発掘調査で見つかった前室の石材を使って、失われていた部分を一部復元しました。また石室を保護するとともに、一般の方が見学可能なよう保護見学室を設けました。彩色による装飾古墳は、急激な温度・湿度の変化が大敵です。また、光が当たることも極力さける必要があります。このため装飾を保護するために、日頃は密閉してあります。永安寺西古墳は、平成16年度から17年度にかけて整備を行いました。東古墳とは違った整備の方法を用いています。最大の特徴として、古墳全体を大きなドーム状の屋根で覆っています。西古墳の装飾は、すでに色が失われているために、密閉してありません。発掘調査で明らかになった羨道から前室の部分は、発掘調査のときの状態のままに保存されています。また、失われていた石屋形については、樹脂で形を表しています。

平成17年度には、両古墳の周辺整備として、見学者の便宜を図るために、遊歩道や解説板の設置工事を行いました。

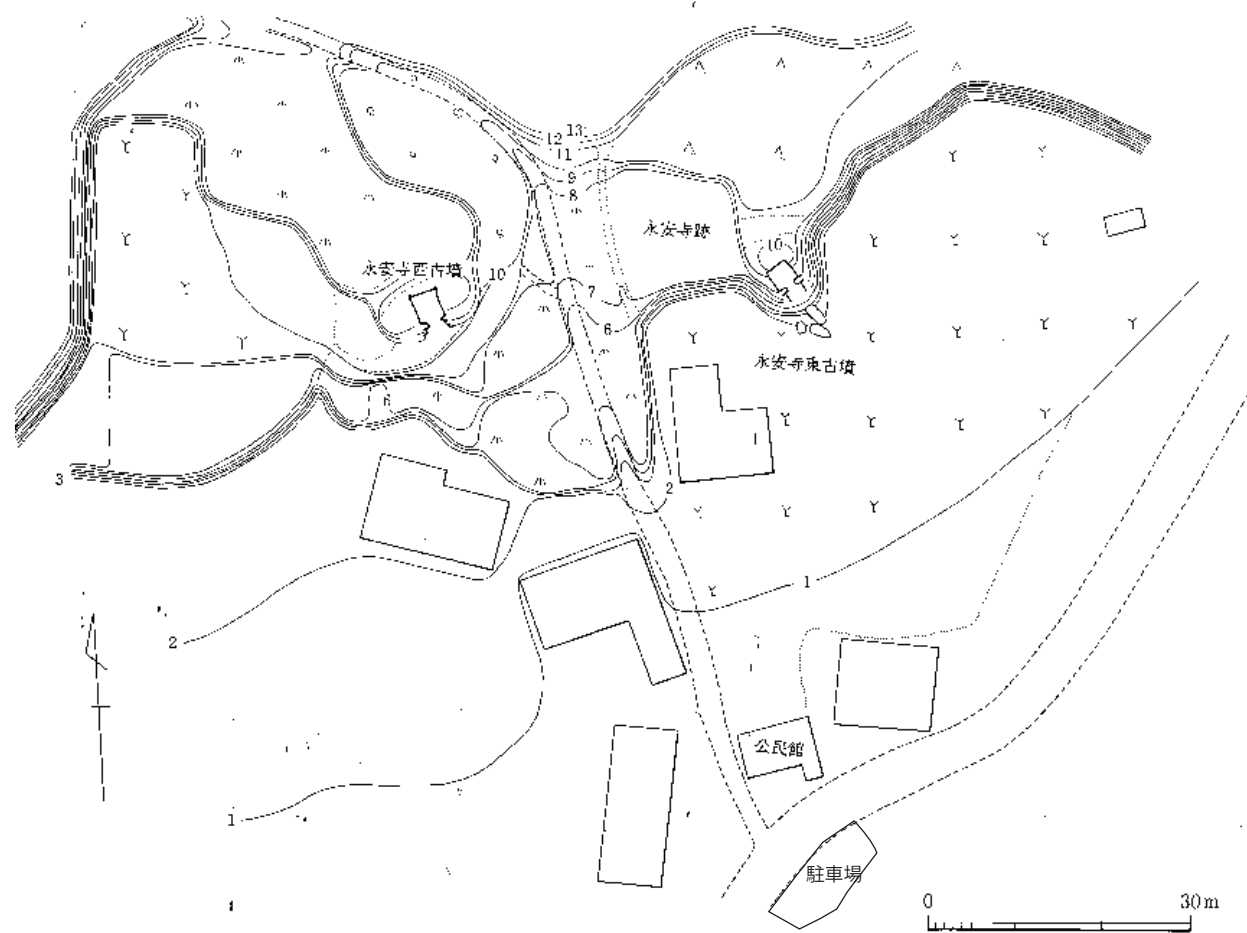


永安寺東古墳

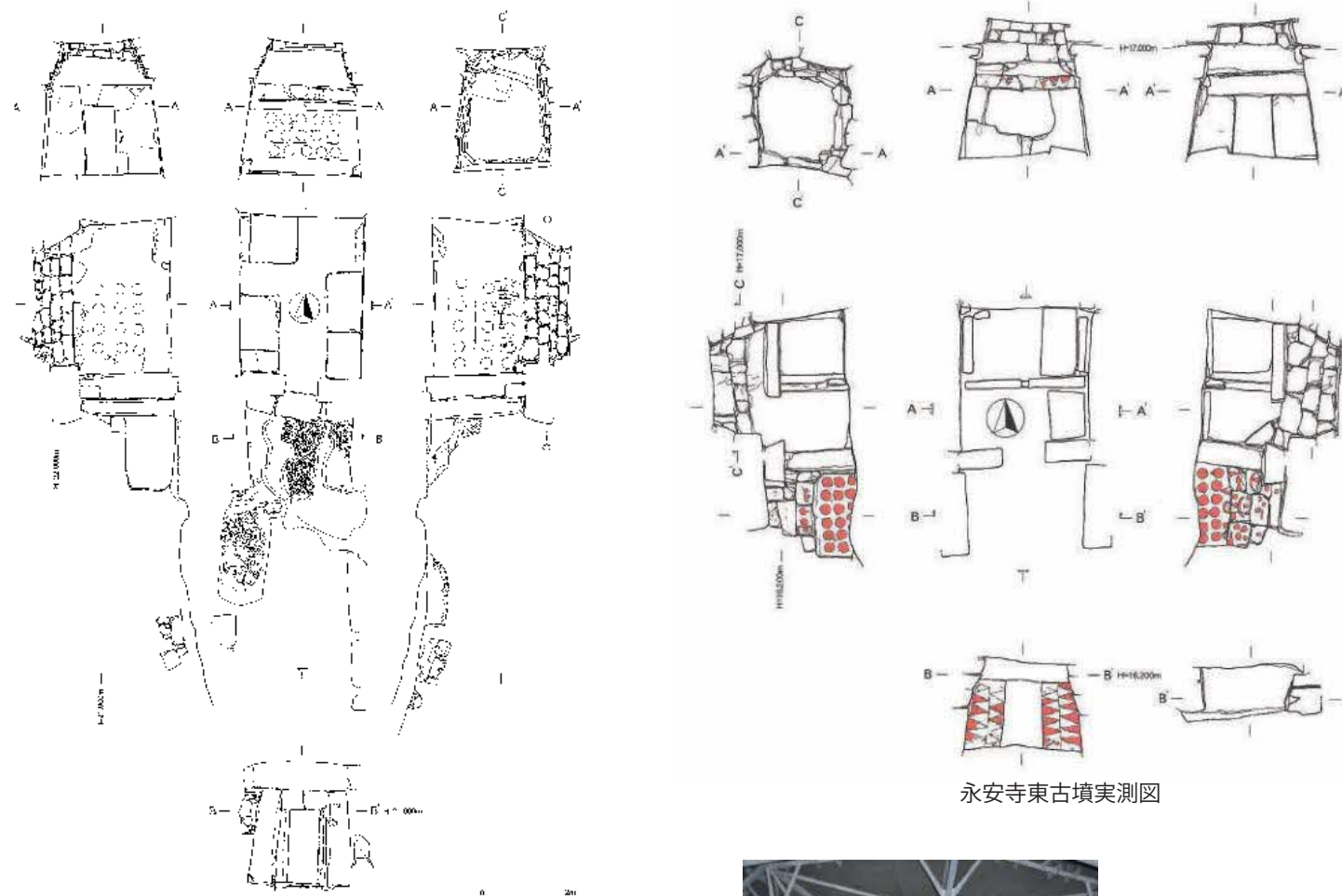


永安寺西古墳





永安寺東古墳・永安寺西古墳測量図（整備前）



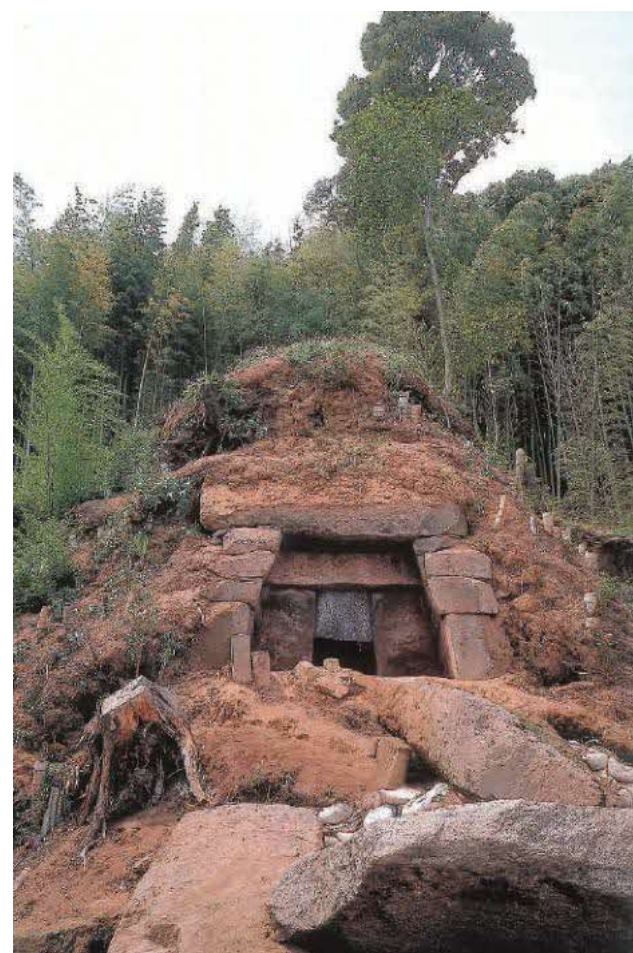
永安寺西古墳実測図

永安寺東古墳実測図

玉名平野北側には、最高点の標高約88mの丘陵が広がっており、その丘陵南側裾部に永安寺東古墳・永安寺西古墳をはじめ多くの古墳が築かれています。古墳の南側は平野部が広がり、墳丘上からは水田などの耕作地を一望できます。

永安寺東古墳・永安寺西古墳は周辺には、地名の由来となっている永安寺という寺院があり、戦国時代に廃絶したことが伝わっております。古墳の墳丘や周辺の敷地は、これまでの土地利用過程で、削られるなどかなり造成されているものの、中世の石塔などが残っています。また、古墳整備に伴う確認調査では、弥生時代の甕棺墓も確認されています。

永安寺東古墳石室の装飾は、前室部分中心に円文や三角文が赤で鮮やかに描かれています。前室側壁の下半分には円文が横2列に描かれ、上半分には船を表しているような図柄などがあります。奥室入口の石には、連続三角文が描かれています。塗ってある顔料の保存状態が非常に良く、全国的にも貴重な装飾古墳です。



整備前の永安寺東古墳



永安寺東古墳玄室入口



永安寺西古墳保護施設内



永安寺東古墳前室西壁



永安寺東古墳前室東壁

6、7ページの永安寺東古墳写真  
熊本県立装飾古墳館提供  
撮影 奈良文化財研究所 牛嶋 茂 氏